

テーマ：縄文遺跡群（実践校）

## 渡島管内 森町立鷲ノ木小学校

## 本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間などにおいて、鷲ノ木遺跡ストーンサークルを見学するとともに、森町遺跡発掘調査事務所の学芸員などのスタッフを外務講師として招聘し、講話を通して、縄文時代を中心とした森町の文化と暮らしについて探究的に学習しました。

## ふるさと教育・観光教育の実践内容

## 単元の目標

鷲ノ木遺跡などの地域資源を最大限に活用した教育活動を通して、森町における縄文時代の人々の暮らしなどについて知り、当時の衣食住やストーンサークルの役割について考えるとともに、ふるさとに対する愛着と誇りを育むことができるようにする。

## 取組の様子

## (1) 課題の設定

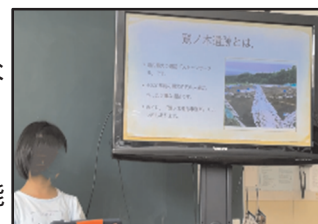
「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、インターネットなどによる調べ学習や、鷲ノ木遺跡ストーンサークルの見学を通して、「北海道の縄文時代について調べよう」という探究課題を設定しました。



【鷲ノ木遺跡見学】

## (2) 情報の収集

森町遺跡発掘調査事務所の学芸員の講話や遺跡見学を通して、縄文時代の食べ物、化粧、土器及び土偶についての理解を深めるとともに、1人1台端末活用して、Webページ「北の縄文ポータルサイト」などから必要な情報を収集しました。



## (3) 整理・分析

1人1台端末を用いて収集した情報を整理するとともに、共同編集機能などを活用し、児童同士で収集した内容について交流・協議することにより、縄文時代の暮らしや文化について理解を深めました。

【スライドを活用した発表の様子】

## (4) まとめ・表現

他の地域の縄文文化と比較したり関連付けたりしながら、各グループが作成したスライドを用いて発表することにより、北海道・北東北縄文遺跡群についての理解を深めるとともに、縄文時代の暮らしと森町との関わりについて考えることができました。

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・一人一人が課題解決に向けて学習を進めることができるよう、課題の設定場面で、児童の思いや願いを明らかにしたり、解決の方向性を見通したりする場面を位置付けました。
- ・課題や学習内容を共有し、交流・協議することができるよう、1人1台端末の共同編集機能などを活用しました。

## 実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、児童自身が設定した課題について探究的に学習を進めたことにより、児童アンケートで、「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した児童の割合が0%から20%に、「縄文遺跡群についてもっと調べたいと思う」と回答した児童の割合が20%から40%にそれぞれ増加するなど、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・学習した内容について、異学年児童、保護者や地域の方を対象にした発表の場を設定することにより、森町への愛着や誇りを一層育むことが期待できます。